

全員が一つになって一生懸命やっている事を理解し、親分肌の気性で対応してくれたことに、我々当事者は感謝したものです。先生の人柄に救われました。

1986年11月15日、札幌経済センターにおいて「札幌荒井山スキー学校」の30周年記念式典、講演、祝賀会に寛仁親王殿下のご臨席を賜り、盛大に開催されました。

殿下のご講演は「我が国スキー」でした。この後、殿下をご案内して先生の行きつけのお店に行き、先生が「殿下、ジャンプ競技場をドームにしてはいかがでしょうか。昔は屋内競技であったバスケット、バレー、野球、スケートなど風の影響を受ける競技は屋内になってきています」と説明しましたが、殿下は「坂井さんそれはないでしょう。世界のジャンプ競技場にドームは一個も無いですよ」とおっしゃいました。

翌日、殿下と私がゴルフをしている時に「帰りにもう一度坂井さんに逢いたい」とおっしゃるので、先生に殿下のホテルまで来ていただきました。殿下から「坂井さん、ジャンプ競技場のドームのお話実現すると素晴らしいですね。未来に向かって夢を実現してください」と、殿下からお言葉がありました。この時の先生の嬉しそうな笑顔が忘れられません。北海道スキー指導者協会の再起設立に努力されたことは、私が申し上げるまでもなく、皆様方が良くご存知のことと思います。先生は好きな人、あまり好きでない人をはっきりするところがあって、ご自分でご苦労されたようです。

お酒の席では、柴田信一先生、速水潔先生、菅秀文先生、毛利修三先生のお話をされる時は、満足そうでした。何よりも好きなのは「スキー小唄」、きっと天国で歌っていることでしょう。

1、僕のスキーはウイスキー

街の酒場をスラローム

鬼門・鬼門にひっかかり

ついに会社をダウンヒル

2、雪の女王とおだてられ

無理して買ったメタルスキー

一度も履かずに盗まれた

油断もスキーもありやしない

坂井敏夫先生、本当に永い間お世話になりました。有り難うございました。

心よりご冥福をお祈りいたします。